

【沖縄県】土地改良を契機とした農村地域の振興事例集

市町村	地区名等	タイトル	頁	発行月	Vol.
八重瀬町	具志頭	「ぐしちゃんピーマン」で県内随一の産地形成	1	H30.03	4
伊江村	伊江	地下ダムと歩む伊江島農業とともに広がる教育農泊	2	H31.03	5
島尻郡北大東村	幕内	基盤整備を契機とした作物転換による農業農村の振興	3	R3.03	7
宮古島市	宮古伊良部	地表排水施設整備による湛水被害の防止	4	R4.03	8
糸満市	喜屋武	基盤整備を契機とした「美らキャロット」ブランドの確立	5	R5.03	9
多良間村	多良間村	地域をあげての環境負荷低減への取組	6	R7.03	11

「ぐしちゃんピーマン」で県内随一の産地形成

や え せ ち ょう
【沖縄県八重瀬町】

体制・人材
づくり
栽培作物
・方法
加工・出荷
販売

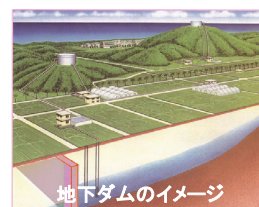
【工夫のポイント】

- 地下ダムを水源とした畑地かんがい等により、高品質なピーマンの安定生産を実現。
- エコファーマーに認定された農家の徹底した栽培管理により、安全・安心なピーマンとしてのPRを推進。
- 地域ブランド「ぐしちゃんピーマン」として東京圏などへ安定的に出荷され、県内外から好評を得ている。

畑地かんがいにより高収益作物の生産が拡大

- 区画整理や地下ダムを水源とする畑地かんがい施設の整備によってかんがい用水が安定的に供給されることで、ハウス栽培を導入したピーマンを始めとする野菜等の計画的な生産が可能となった。

基盤整備
(H8年～H24年)



【整備前】

ほ場の区画が狭小かつ不整形、畑地かんがい施設も未整備であり、単収や品質が不安定であったことから、消費地である那覇近郊である立地を活かし、市場ニーズに対応した農業を展開することができずにいた。



【取組地域の概要】

- 位置
沖縄県島尻郡八重瀬町



- 主要作物
・さとうきび、ピーマン、サヤインゲン
- 主な支援施策
・国営かんがい排水事業(H4～17)
・県営かんがい排水事業(H13～16)
・県営畑地帯総合整備事業(H9～24)
・団体営基盤整備促進事業(H8～21)

エコファーマーによる安全・安心なピーマン作り

- 地区内農家で組織されるJA野菜生産部会ピーマン専門部(部員55名:全員がエコファーマー認定)では、技術指導員の下、有機質肥料による土作りや減農薬等を通じて、安全・安心なピーマン作りに取り組んでいる。
- 県の関係機関の協力を得て、天敵農薬※の取組等も行われ、安全・安心の一層の向上を目指している。

※ 農業としての目的で利用される生きた生物のこと

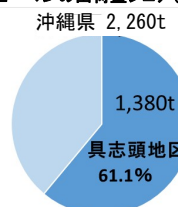


生産現場

ピーマンの地域ブランド化と県外市場への出荷

- 部員全員がJAの共同選果場を利用し、共選・共販により安定的に東京圏などへ出荷。
- 沖縄以外ではほとんど作付けが見られない品種のため、県外市場で安定したシェアを獲得しているほか、「ぐしちゃんピーマン」の名で県内外から好評を得ている。

【ピーマンの出荷量シェア(H27)】



注) 具志頭地区には南城市を含む。
【出典: 沖縄農林水産統計年報】

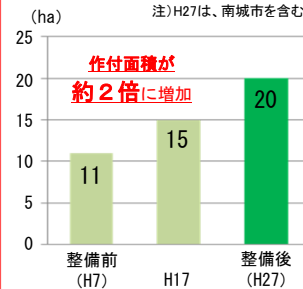
県内随一のピーマン産地への成長とブランド化による販売額の上昇

- 畑地かんがい施設の整備等により、作付面積が約2倍に増加。出荷量が県全体の約6割を占める産地にまで成長。
- 地域ブランド化による県外市場への出荷等により、事業実施地区内における販売額は約2.6倍に増加。



【ピーマンの作付面積】

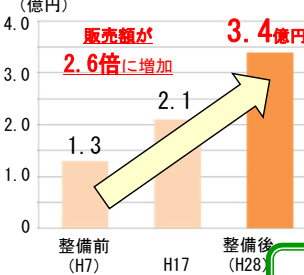
注) H27は、南城市を含む



【出典: 沖縄農林水産統計年報】

【ピーマンの販売額推移】

(億円)

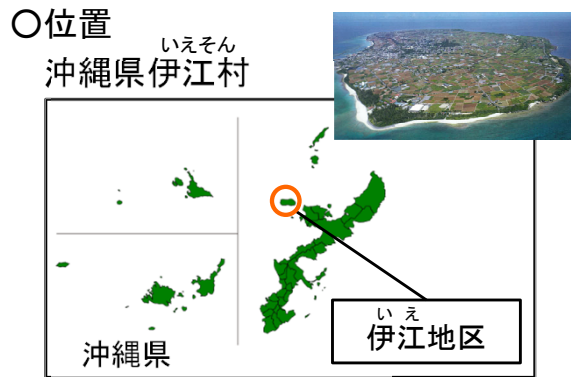


【出典: JAおきなわ具志頭支店調べ】

【工夫のポイント】

- 地下ダム等を水源とした畑地かんがいにより、高収益作物が安定して生産されるとともに、農作業が省力化。
- また、花き選別施設の整備により、選別・出荷にかかる農家負担を軽減。
- 農作業にゆとりが生じ、若者から高齢者まで幅広い担い手が活躍する産地づくりが進み、また修学旅行生等を受入れる農泊が拡大したことで、農家の所得向上に貢献。

【取組地域の概要】



- 主要作物
- ・キク、島らっきょう、さとうきび 等

○主な支援施策

- ・国営かんがい排水事業（H16～H29）
- ・県営かんがい排水事業（H7～）
- ・団体営基盤整備促進事業（S61～）
- ・沖縄北部活性化特別振興事業（花き選別施設）（H22）

基盤

畑地かんがいにより高収益作物の生産が拡大

地下ダム等を水源とした畑地かんがいにより、キクをはじめとした花きや島らっきょうなどの高収益作物の安定的な生産が可能となった。



基盤整備 (S61年～H29年)

【整備前】

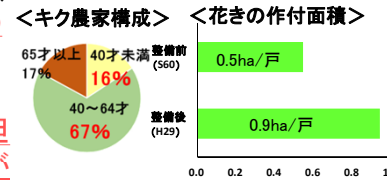
干ばつが頻発する中で作物の計画的な生産が困難であり、また水汲み等に多大な労力が必要であった。



生産現場

あらゆる世代が活躍できる主産地の形成

- 畑地かんがいにより、キク等のかん水作業の労力が軽減するなど営農条件が大きく改善。
- 若手の新規就農や担い手の経営規模拡大が進み、産地形成に貢献。



加工・流通

作業負担の軽減と流通不利性の克服

- H22に花き選別施設を設置し、農家の選別・出荷作業にかかる負担を軽減。
- 担い手の経営規模拡大や高齢者の営農を支え、安定的な生産・出荷を実現し、更なる産地化を後押し。



地域の取組

「教育農泊」によるインバウンド受入れの推進

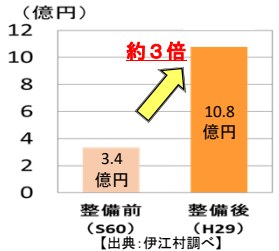
- 地下ダム等により展開される伊江島農業とその省力化等によるゆとりを背景に、「教育農泊」を推進。修学旅行生が約4.3万人/年に増加。



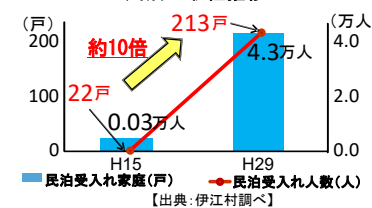
島民一丸となって稼ぐ農業を展開し、皆がやり甲斐をもって活躍できる地域づくりを目指す

- 輪ギクの販売額は整備前後で約3倍に増加（県全体の1/3）し、沖縄県1位の拠点産地へと拡大。
- 農家を含む民泊の受入れ家庭は、農業体験等を通して修学旅行生等との交流にやりがいを感じており、約10倍（H15比）に拡大。

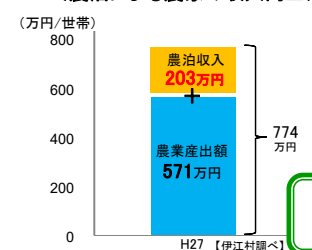
＜輪ギク販売額＞



＜民泊の取組推移＞



＜農泊による農家の収入向上＞



基盤整備を契機とした作物転換による農業農村の振興

しまじりぐんきただいとうそん
【沖縄県島尻郡北大東村】

農業の成長産業化

国土強靱化

【工夫のポイント】

- かんがい排水事業の実施を契機に、**高収益作物**への転換が進み、かぼちゃが県の**拠点産地**として認定。
- かんがい施設の整備により、さとうきび一辺倒から、ばれいしょ、かぼちゃへの転換が進展。
- **農福連携**による特産品の創出。
- 島の**人口の維持増進**に寄与。

基盤

干ばつ被害軽減による 経営安定化及び産地収益力の向上

安定的な用水の確保により、さとうきびの増収が図られるとともに**高収益作物(野菜)への作物転換**が進展。農家所得の向上を期待。



点滴かんがい



かぼちゃ



ばれいしょ

基盤整備 (H17年～R5年)

【整備前】

かんがい施設が確保されておらず、**頻繁に干ばつ被害に見舞われ**、干ばつ時には生産農家が自力で塩分濃度の高い小さな自然池からトラクターで水を運搬するなど、**かん水作業の負担大**。



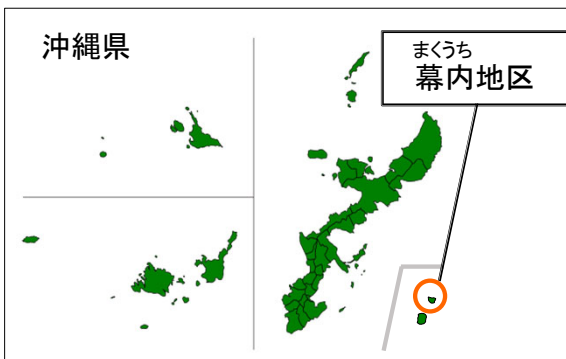
かん水のための水運搬



干ばつ被害

【取組地域の概要】

- 位置 きただいとうそん
沖縄県北大東村（離島等）



- 主要作物
・さとうきび、かぼちゃ、ばれいしょ

- 主な支援施策
・県営かんがい排水事業（H17～H22）
・沖縄振興自主戦略交付金（H23）
・沖縄振興公共投資交付金（水利施設整備事業）（H24～R5）
・中山間地域所得向上支援事業（H28～R1）

生産現場

かんがい施設整備による生産規模の拡大

- かんがい施設整備を契機としてかぼちゃ栽培が始まり、**県の拠点産地として位置付け**。
- 品質が本土市場で評価されたことで生産者の意欲が高まり、**生産規模が拡大**。



かぼちゃの集出荷



かぼちゃの収穫

加工・流通

農福連携の取り組みによる特産品の創出

- 規格外のかぼちゃの活用にあたり、島外から招いた**障がい者による収穫活動支援**を受け、新たな特産品として、**じゃがいも焼酎「ぼてちゅう」を創出**。



- 平成27年度の離島特産品の展示即売会では初日で完売するなど好評。



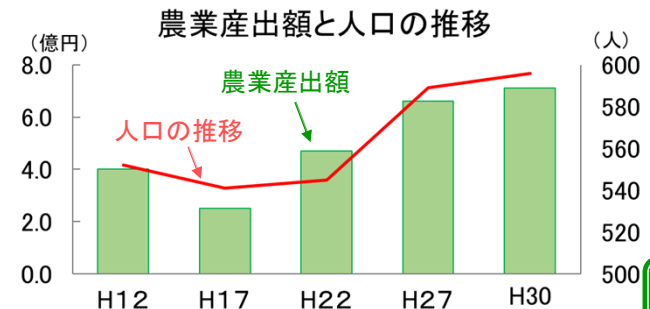
収穫活動支援

農業農村振興の波及による島の人口の維持増進

- かんがい施設整備によりかぼちゃ出荷量が増加。



- 島の人口は平成17年までは減少傾向だったが、平成22年以降の**人口の維持増進に寄与**。

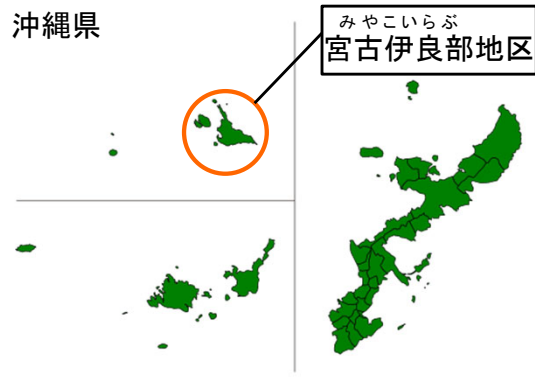


【対策のポイント】

- 降雨形態が変化する中、平成30年8月の大雨では農地等の湛水被害が発生。
- このため、3か年緊急対策において、地表排水施設の整備を実施。
- 地表排水施設を整備したことで令和3年8月の大雨では被害を回避。

【取組地域の概要】

○位置 みやこじまし
沖縄県宮古島市



- 主要作物
・さとうきび、かぼちゃ、飼料作物 等
- 工事内容
・地下ダム建設、用水路整備 等

事業名	事業費	対策期間
国営かんがい排水事業	663億1500万円	H21～R7
うち3か年緊急対策	6億8千万円	H30～R2

地表排水施設の浸透池等の整備を実施

- 平成30年8月の大雨により農地等の湛水被害が発生する等、近年の降雨形態の変化に対応するため、3か年緊急対策により^{しんとういけ}浸透池等の地表排水施設の整備を実施。



さとうきび畑湛水状況
(H30年8月撮影)

基盤整備

(H30～R2)



砂川浸透池

3か年緊急対策で整備した地表排水施設により湛水被害を回避

- 令和3年8月22日の大雨では日雨量240mmを記録。
- 従前では溢水による湛水被害が生じるおそれがあったが、地表排水施設の整備により排水能力が確保され、農地等の湛水被害を回避。

- 浸透池の排水方法
宮古島の地質の大部分は、水を通しやすい琉球石灰岩で占められているため、地表水を浸透池に集めて地下に浸透させ地表水を排水。



琉球石灰岩



宮古島の地層



浸透池の排水のしくみ

想定される被害

	想定被害額	想定湛水面積
対策前	2億2000万円	25.5ha
対策後	被害なし	被害なし

※上記は仲原地下ダム建設後も地表排水施設が未整備の場合の試算結果

高付加価値作物の生産

- 農業用水を安定的に供給するため、新たに地下ダム建設、用水路整備を実施中。
- 地下ダムの水を利用し、マンゴーなどの栽培を進め、観光との連携、ブランド化を推進。



マンゴーの販売

地域の取組

【工夫のポイント】

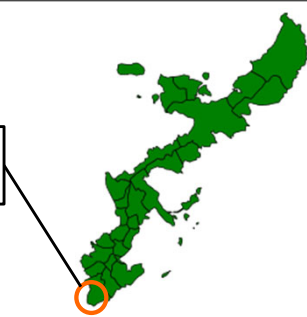
- 畑地かんがい施設の整備を契機に、さとうきび主体の農業からにんじん等の高収益作物に転換。
- 地域の関係者が一体となって、にんじんの品質、栽培技術の向上に取り組み、地元産のにんじんを「美らキャロット」と命名し、各種イベントの実施等によりブランド化に成功。
- 農作業の効率化を図ることで、女性の活躍を促進し、農産物の加工品づくりも行い付加価値向上に取り組んでいる。

【取組地域の概要】

- 位置 いとまんし
沖縄県糸満市

沖縄県

きやん
喜屋武地区



- 主要作物
・さとうきび、レタス、にんじん
- 主な支援施策
・国営かんがい排水事業(H4～H17)
・県営畑地帯総合整備事業(H11～H22)

基盤

農産物の安定生産と生産振興

ほ場や畑地かんがい施設の整備により
農産物の安定生産、園芸作物の生産振興が図られた。



整備後

基盤整備
(H11年～H22年)

生産現場

品質向上への取組により県の拠点産地に認定

- 農家、市、JAが中心となった支援チームを結成し、にんじんの品質向上のため、品種の統一、技術実証展示ほ場の設置、栽培講習会を実施。
- 栽培技術の向上等に取り組んだ結果、定時・定量・定品質の出荷ができる拠点産地として沖縄県が認定。
- JAおきなわは、「美らキャロット」を沖縄ブランドとして商標登録(H21)。



にんじんの収穫状況

地域の取組

女性の活躍

- 畑の作業は女性が主に行ってきたが、基盤整備により女性達の作業効率化が図られ、労働負担の軽減等につながった。
- にんじんを核とした地域づくりに積極的に取り組み、婦人会等による料理考案、加工品開発を実施。



にんじんの出荷状況



料理考案、加工品の製造・販売

【整備前】

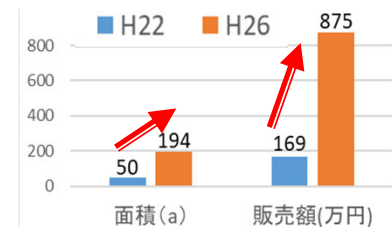
地域一帯は河川がなく、度々干ばつの被害を受け、ほ場も不整形で狭小であったため作業効率も悪く、農業生産の厳しい環境下にあった。



整備前

作付面積、販売額の向上

- 基盤整備により、生産組合のにんじん作付面積と販売額が増加。



地域経済の活性化

- JAが「地産地消」を合い言葉に県内初のファーマーズマーケット「うまんちゅ市場」をH14に糸満市に開設し、地域の農産物等を販売。「美らキャロット」は、根菜類で一番の売上げ。
- コロナ状況下の令和3年度でも「うまんちゅ市場」は販売高15億円を維持。



うまんちゅ市場



うまんちゅ市場販売中
「美らキャロット」

令和3年度 うまんちゅ市場
年間来客者：73万人
年間売上高：約15億円
登録会員：1,183名

地域をあげての環境負荷低減に向けた取組

たらまそん
【沖縄県多良間村】

省力化・スマ農
国土強靱化
保全管理
グリーン

【工夫のポイント】

- 区画整理と合わせ道路・排水路を整備。
- 島一体となって環境負荷低減に取組み、さとうきび生産組合として団体にエコファーマーに認定。
- 持続可能な農業への転換に向け、化学肥料及び化学合成農薬の地域慣行比3割減を達成。

基盤

区画整理による生産性の向上

- 道路・排水路を整備し、農地の集約化を図ることで作業性が向上。
- 農地の大区画化も実施し、平均ほ場面積は2haに。



区画整理されたほ場



大型農業用機械での作業

基盤整備
(H22年～)

【整備前】

不整形なほ場に道路・排水路も未整備で機械化の遅れが課題。
道路が無い袋地状態のほ場により営農に支障。



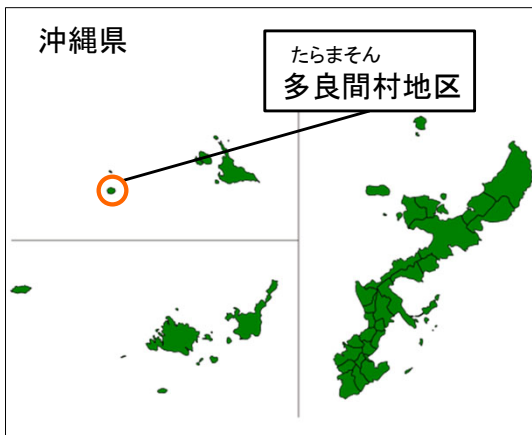
基盤整備前のほ場



袋地状態のほ場

【取組地域の概要】

- 位置 たらまそん
沖縄県多良間村



- 主要作物
・さとうきび、牧草、野菜

- 主な支援施策
・農山漁村活性化対策事業 (H22～H28)
・元気な村づくり交付金 (H18～H21)
・農村集落基盤再編・整備事業 (H30)

環境負荷低減

持続的な農業への転換

- 平成8年度～平成30年度に3棟の堆肥舎を整備。島内で発生した牛ふんやさとうきびの葉がら等から精製した堆肥を農地へ還元。
- 村内製造堆肥、緑肥、緩効性肥料の施用を推進し、環境負荷低減に配慮した持続的な農業への転換を図った。



堆肥舎



堆肥投入状況



堆肥集積状況

地域の取組

エコファーマーの取組

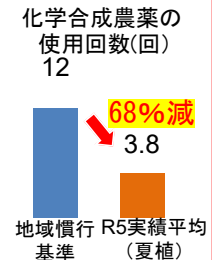
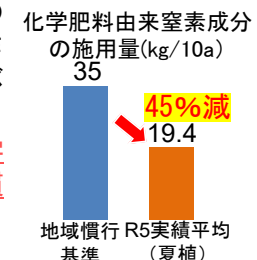
- 多良間村さとうきび農家全体でエコファーマー認定の取得に向けて取組み、平成26年に村内全さとうきび生産農家が認定。
- 村内の全さとうきび生産農家で構成する「多良間地区さとうきび生産組合」が沖縄県で初めて団体として認定(225戸)。島一体で環境負荷低減に取り組む。



団体でのエコファーマー認定
(令和6年7月3日)

化学肥料・農薬の削減

- エコファーマーの取組により、基幹作物であるさとうきび(夏植)において、化学肥料及び化学合成農薬の地域慣行比3割減を達成。



さとうきび生産量の増加

- 基盤整備を契機としたエコファーマーの取組により、さとうきび生産量及び収穫面積が増加傾向。

多良間村のさとうきび生産実績

